

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年3月27日

予報期間：3月29日～4月28日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
西日本では、1週目の気温は低いですが、2週目は高くなり、期間の前半は気温の変動が大きいです。
沖縄・奄美では、期間のはじめは気温がかなり低くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本と東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
東日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報

| 1か月 | | 気温(%) | 降水量(%) | 日照時間(%) | 降雪量(%) |
|-------|------|----------|----------|----------|--------|
| | | 低並高 | 少並多 | 少並多 | 少並多 |
| 北日本 | 日本海側 | 10:20:70 | 30:40:30 | 40:40:20 | |
| | 太平洋側 | | 20:40:40 | 40:40:20 | |
| 東日本 | 日本海側 | 20:30:50 | 40:40:20 | 30:40:30 | |
| | 太平洋側 | | 30:30:40 | 40:40:20 | |
| 西日本 | 日本海側 | 30:30:40 | 40:40:20 | 30:40:30 | |
| | 太平洋側 | | 40:40:20 | 30:40:30 | |
| 沖縄・奄美 | | 40:40:20 | 30:30:40 | 40:30:30 | |

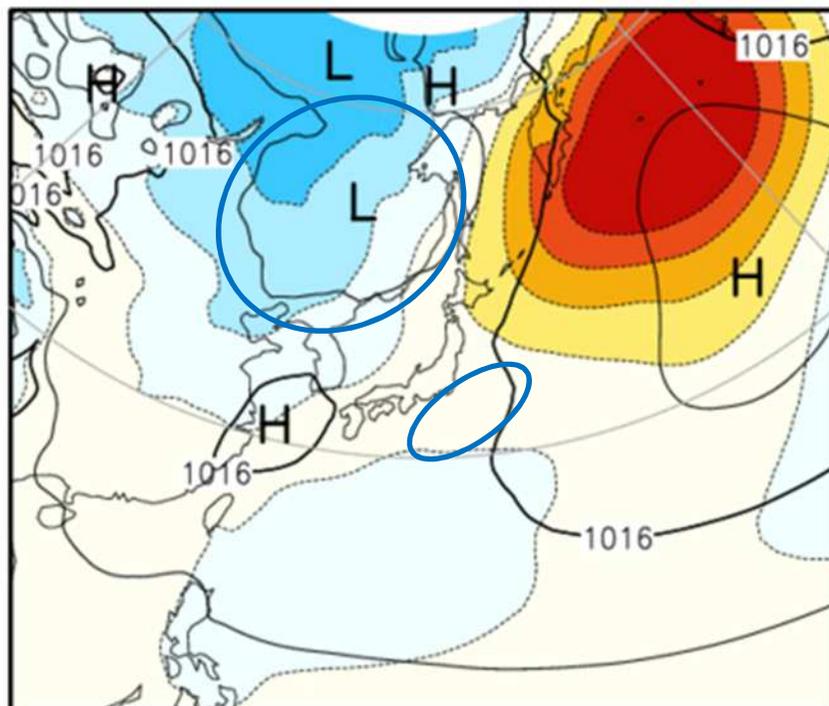
| 気温 | 1週目(%) | 2週目(%) | 3~4週目(%) |
|-------|----------|----------|----------|
| | 低並高 | 低並高 | 低並高 |
| 北日本 | 20:40:40 | 10:10:80 | 10:30:60 |
| 東日本 | 30:50:20 | 10:20:70 | 20:30:50 |
| 西日本 | 70:20:10 | 10:30:60 | 20:40:40 |
| 沖縄・奄美 | 80:10:10 | 20:50:30 | 30:30:40 |

全般予報のポイント

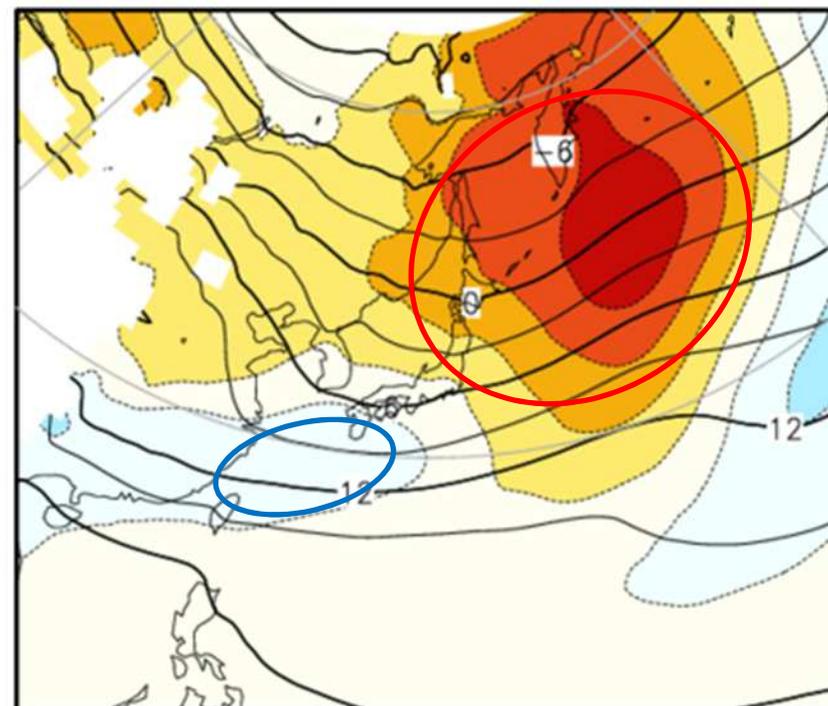
- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は、北・東日本で高いでしょう。特に、期間の前半は北日本でかなり高くなる見込みです。
- 西日本では、1週目の気温は寒気の影響を受けやすいため低いですが、2週目は暖かい空気が流れ込みやすいため高くなり、期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。
- 低気圧や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は北日本太平洋側で平年並か多く、日照時間は北日本と東日本太平洋側で平年並か少ないでしょう。
- 東日本日本海側と西日本では、低気圧や前線の影響を受けにくい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か少ないでしょう。
- 沖縄・奄美では、寒気の影響を受けやすいため、向こう1か月の気温は平年並か低いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり低くなる見込みです。

北・東日本では、3月25日発表の3か月予報での4月の予報に比べ、暖かい空気に覆われやすい見通しに変わったため、高温の可能性が大きくなりました。

海面気圧(1か月)



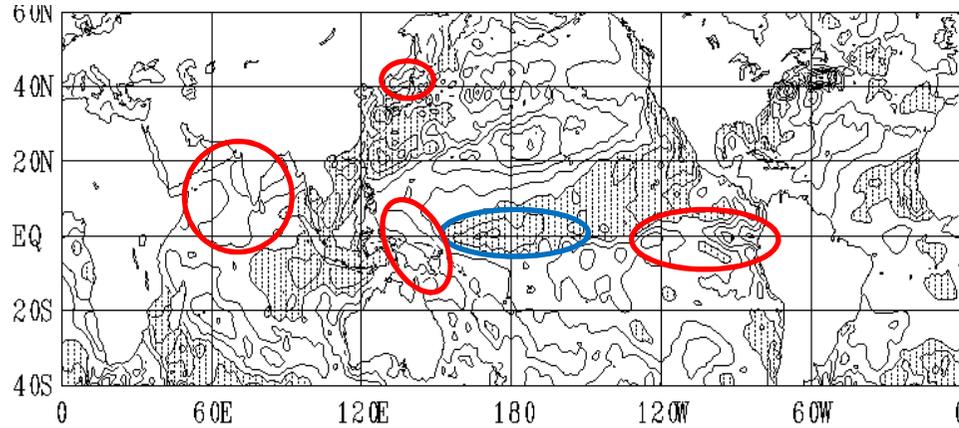
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、中国東北区付近を中心に平年より低く、北日本では低気圧や湿った空気の影響を受ける時期があるでしょう。また、太平洋側には気圧の谷が予測されており、東日本太平洋側では低気圧や前線の影響を受ける時期があるでしょう。

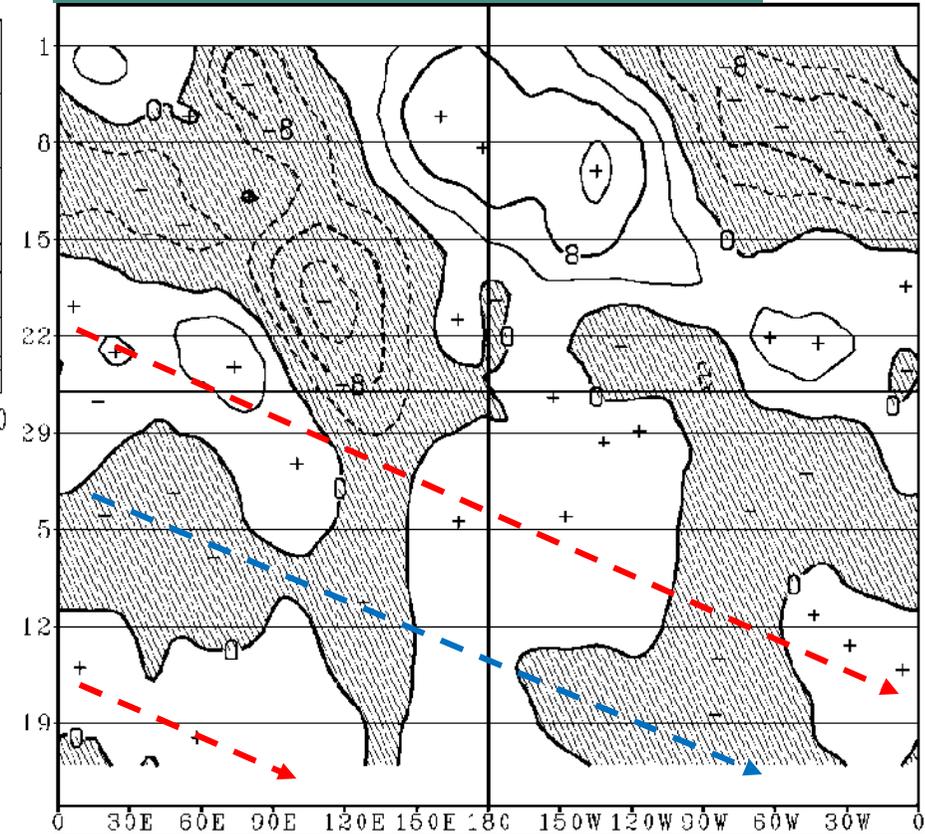
上空約1500mの気温(右図)は、千島の東を中心に高く、北・東日本は暖かい空気に覆われやすいでしょう。一方、東シナ海付近では平年より低く、沖縄・奄美は寒気の影響を受ける時期があるでしょう。

SST偏差



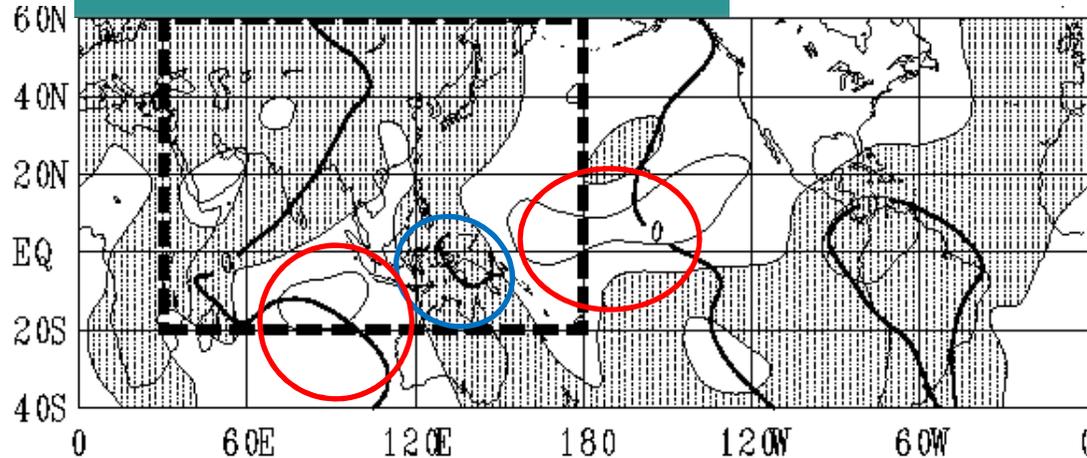
熱帯域では、インド洋北部とニューギニア島周辺、太平洋東部で正偏差、日付変更線付近で負偏差。日本付近では、日本海北部から日本の東にかけて正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



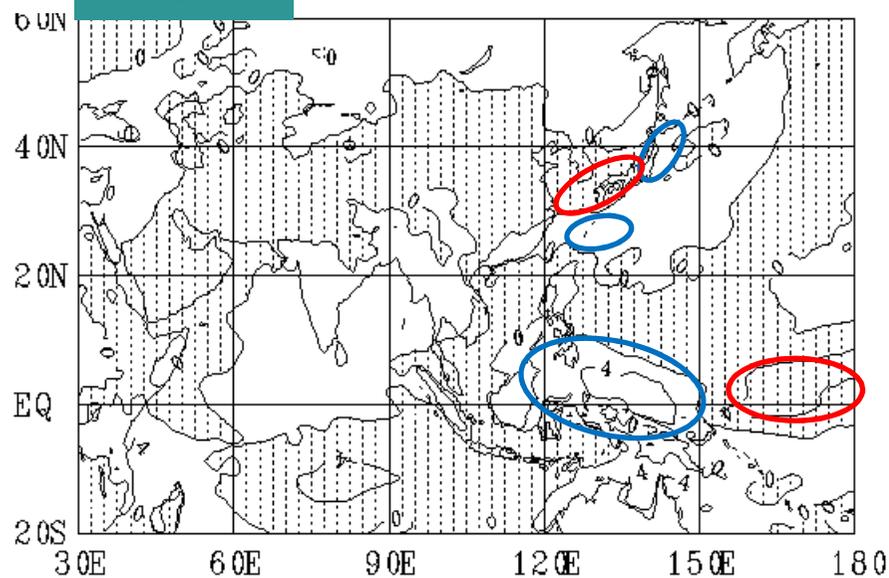
インド洋西部やインドネシア付近では、1、2週目は対流活発だが偏差は小さく、3、4週目はインド洋では対流不活発となる。あまり明瞭でないがMJOの東進が見られる。

200hPa速度ポテンシャル



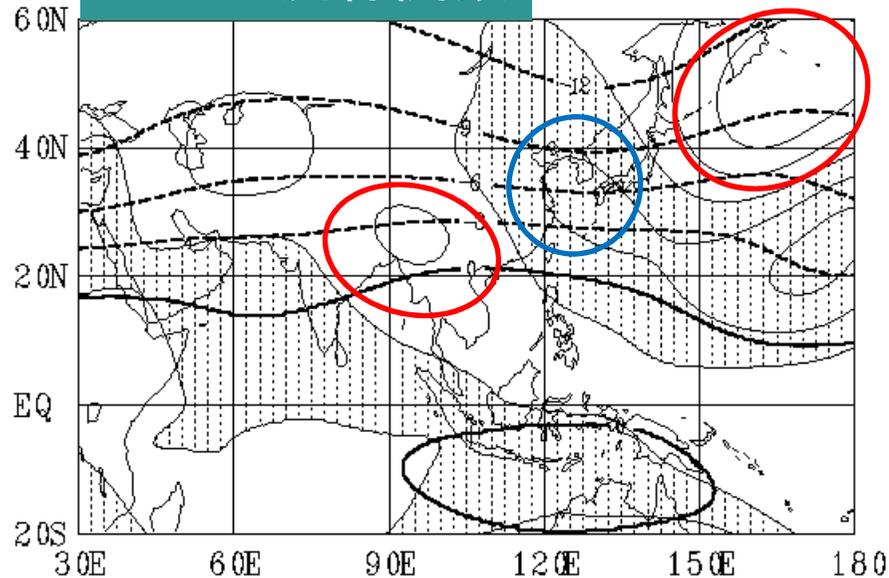
インドネシア付近で上層発散偏差、インド洋南部と日付変更線付近で上層収束偏差だが、全体的に偏差は小さい。

降水量



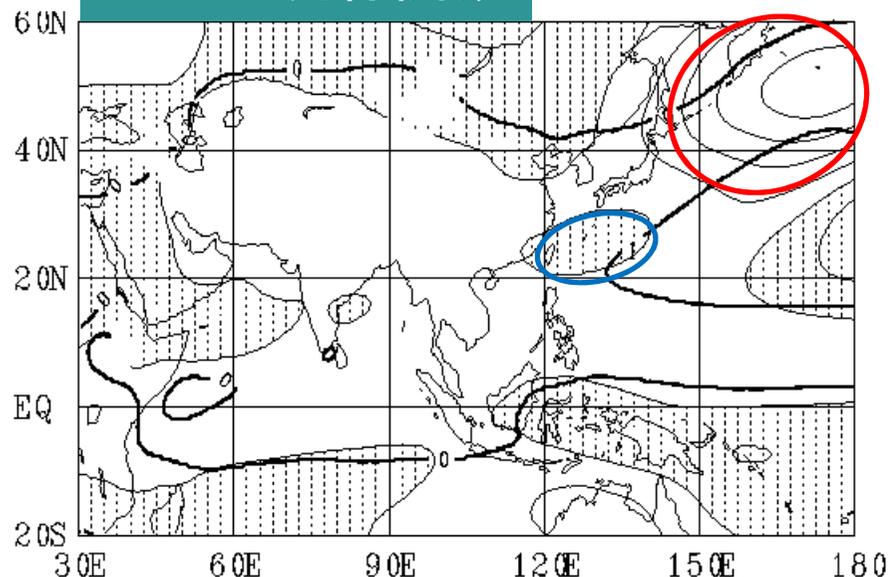
インドネシア付近で多雨偏差、日付変更線の西で少雨偏差。日本付近は、東・西日本日本海側中心に少雨偏差、北・東日本太平洋側と沖縄・奄美付近で多雨偏差。

200hPa流線関数



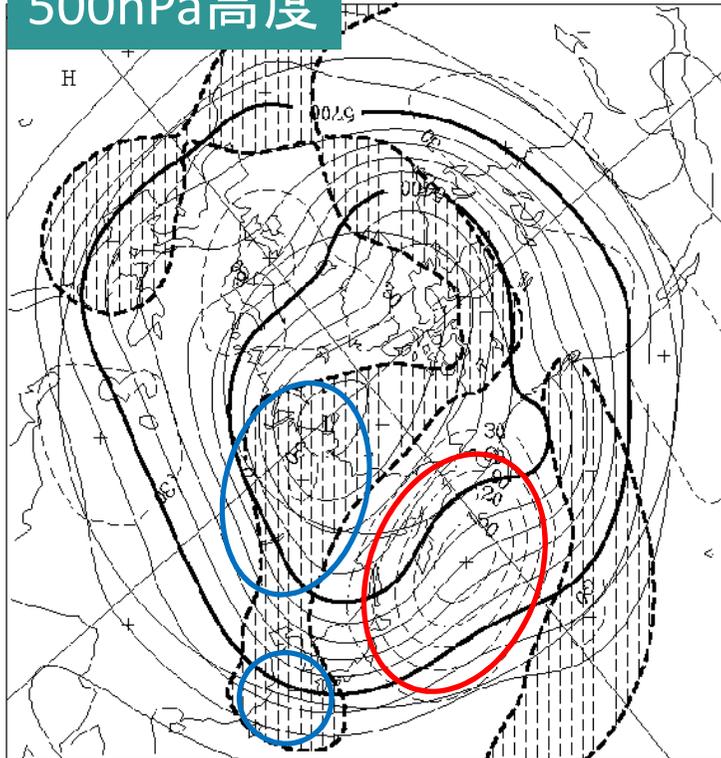
チベット付近で高気圧性循環偏差、東シナ海付近で低気圧性循環偏差、カムチャツカの東で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

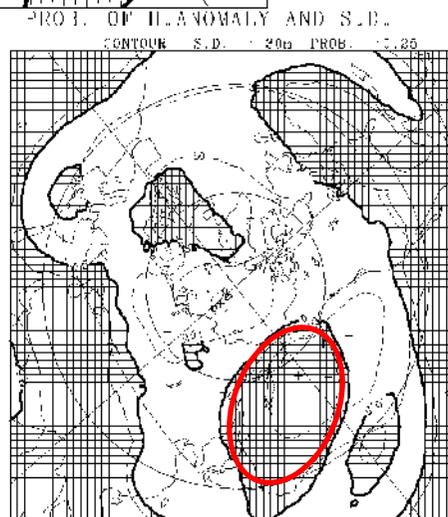
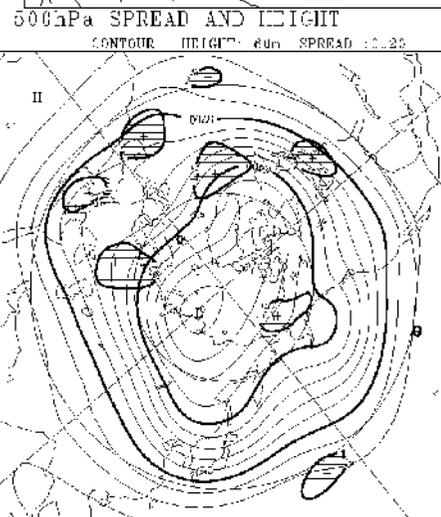


沖縄付近では低気圧性循環偏差、カムチャツカの東は高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。北日本太平洋側は南東風偏差となり、湿った空気が流れ込みやすい。

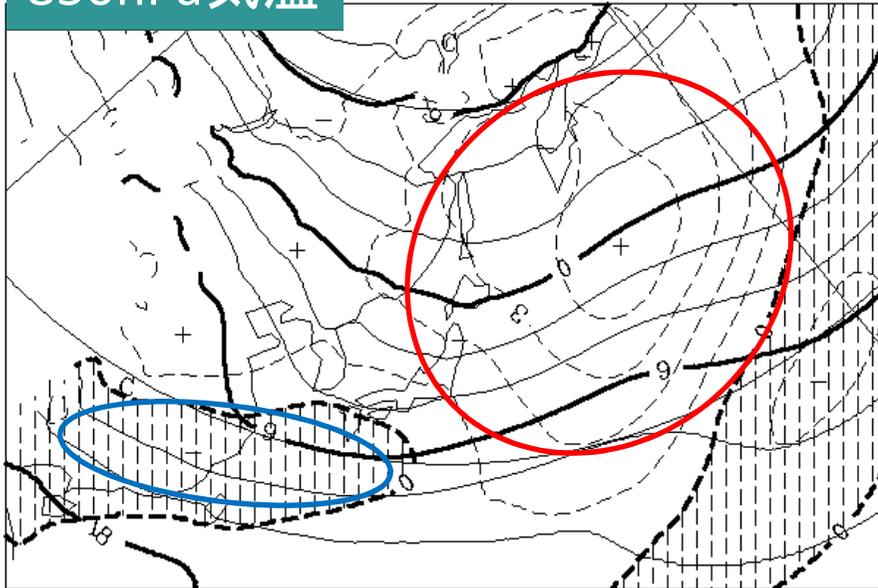
500hPa高度



中央シベリア付近から東シナ海付近にかけて負偏差。一方、アリューシャンの南で正偏差が強く、北日本は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われている。北日本は西谷傾向。

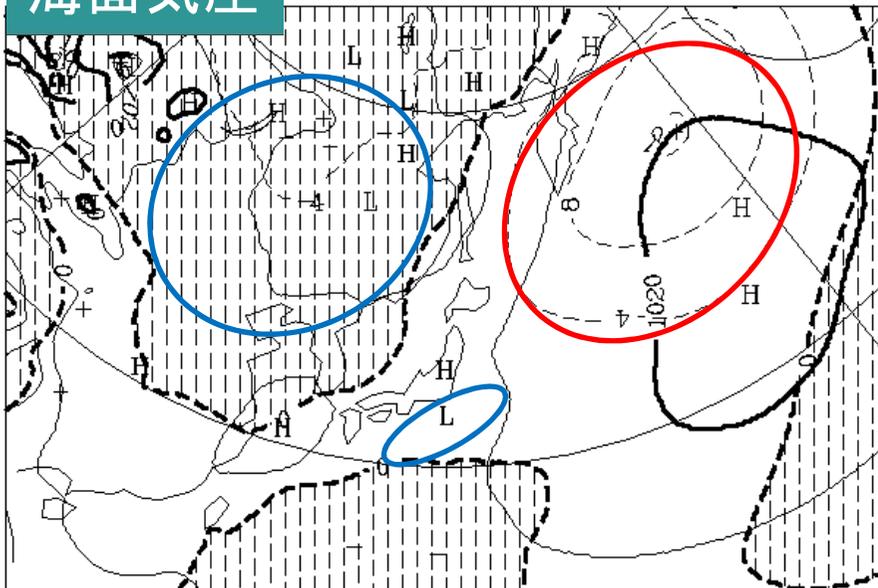


850hPa気温



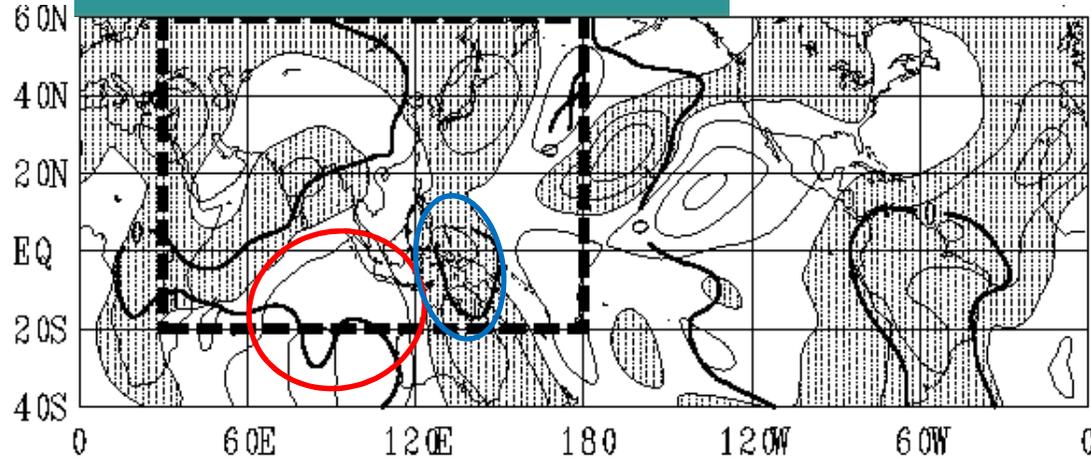
千島の東を中心に、北・東日本付近は正偏差。一方、沖縄・奄美付近は負偏差。
本州付近では南北の温度傾度が小さく、じょう乱が発達しにくい。

海面気圧



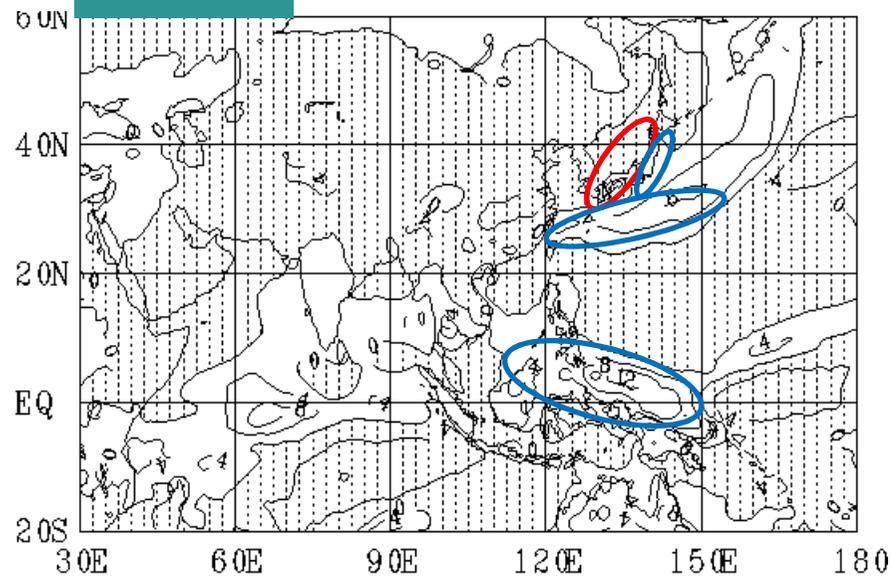
上層の偏差パターンと対応して、カムチャツカの東は正偏差で日本の東は高気圧、中国東北区中心に負偏差で低圧部となっている。一方、太平洋側には気圧の谷が予測されている。

200hPa速度ポテンシャル



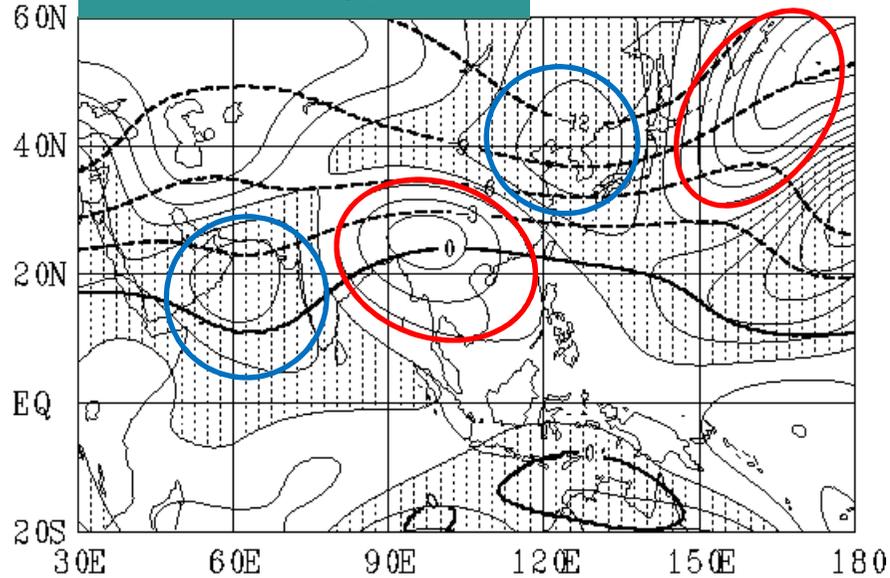
インド洋南東部で上層収束偏差、インドネシア付近で上層発散偏差。

降水量



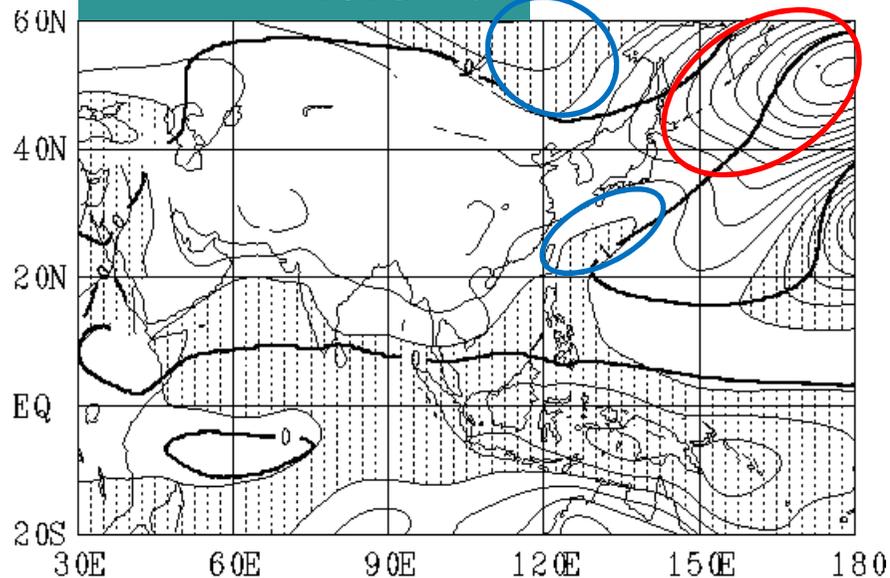
インドネシア付近で多雨偏差。
日本付近は、日本の南や北・東日本太平洋側中心に多雨偏差、日本海側中心に少雨偏差。

200hPa流線関数



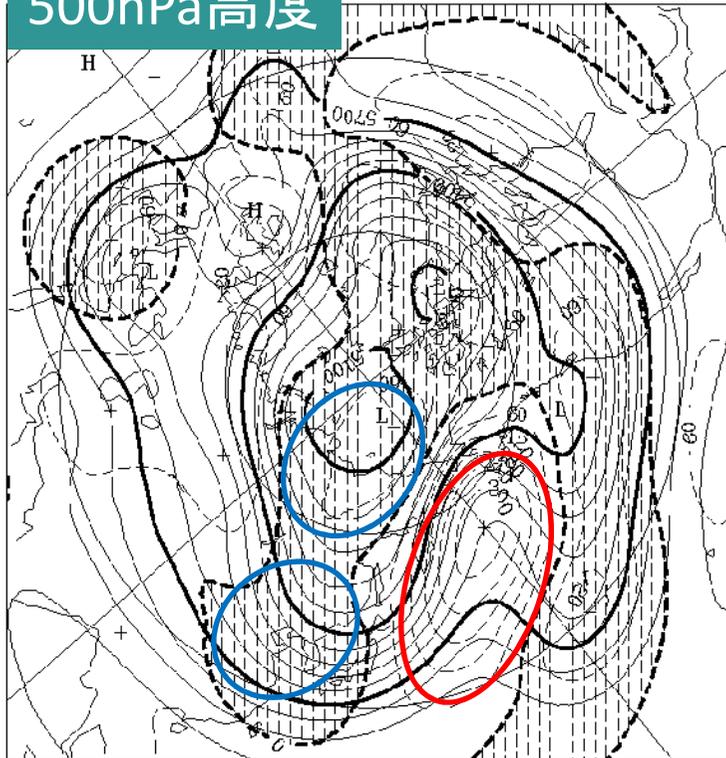
亜熱帯ジェット気流沿いの波東伝播が明瞭で、朝鮮半島付近で低気圧性循環偏差、カムチャツカの東で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

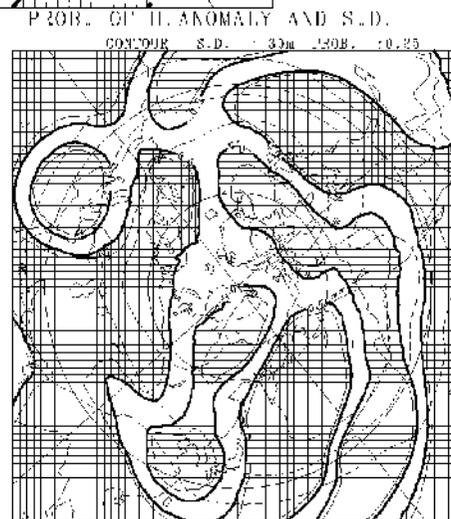
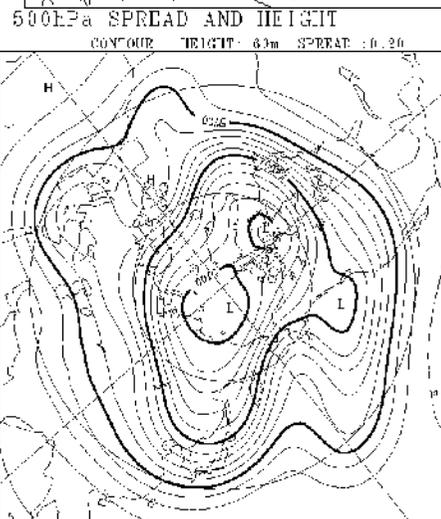


バイカル湖の東で低気圧性循環偏差、カムチャツカの東は高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。日本の南は相対的な低気圧性循環偏差。

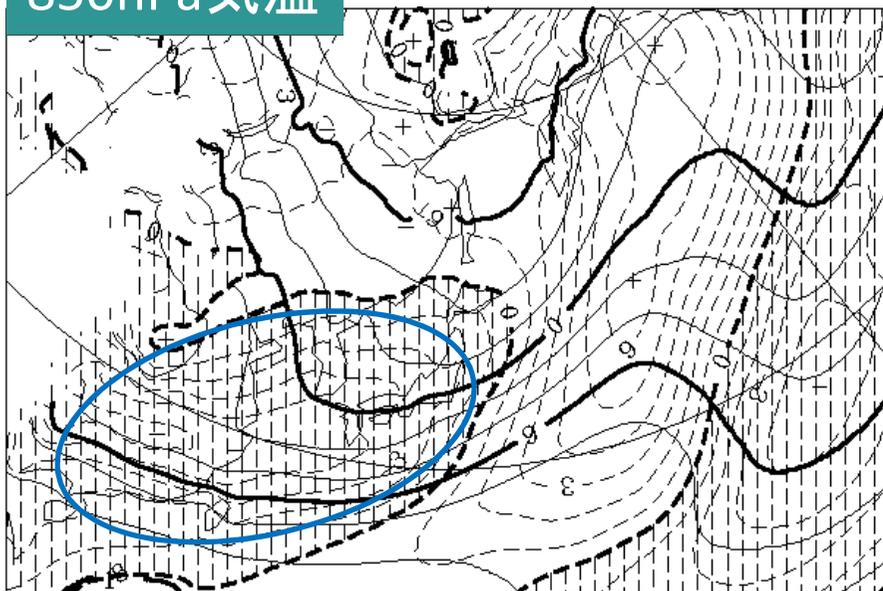
500hPa高度



北極海に極渦があり、中央シベリアから朝鮮半島付近にトラフがのびる一方、アリューシャン付近から日本のはるか東はリッジが明瞭となる。

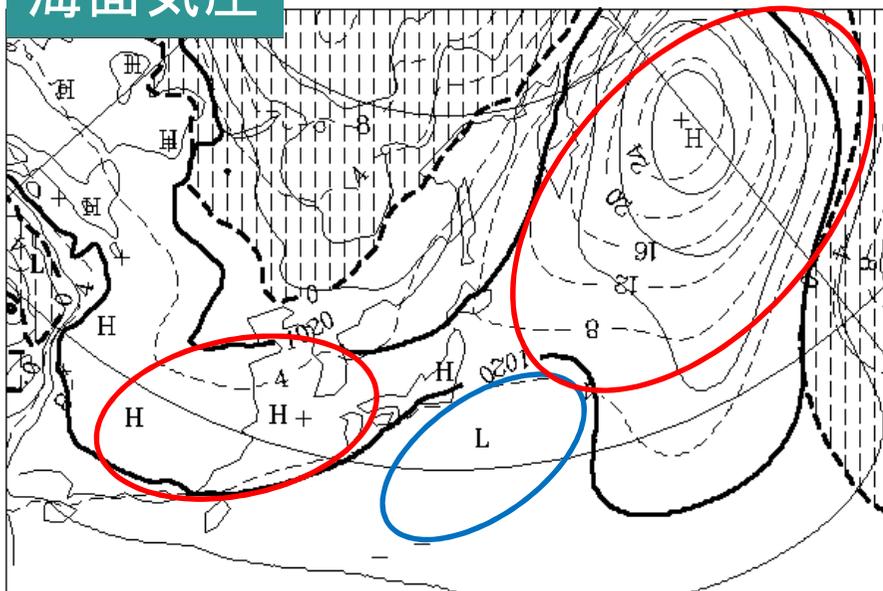


850hPa気温



日本付近は大陸からのびる負偏差に覆われる。

海面気圧



カムチャツカの東と華中付近が高気圧となる一方、日本の南は気圧の谷となる。東日本日本海側と西日本は低気圧や前線の影響を受けにくい。

想定される天候

- 北・東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 北・東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- 西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

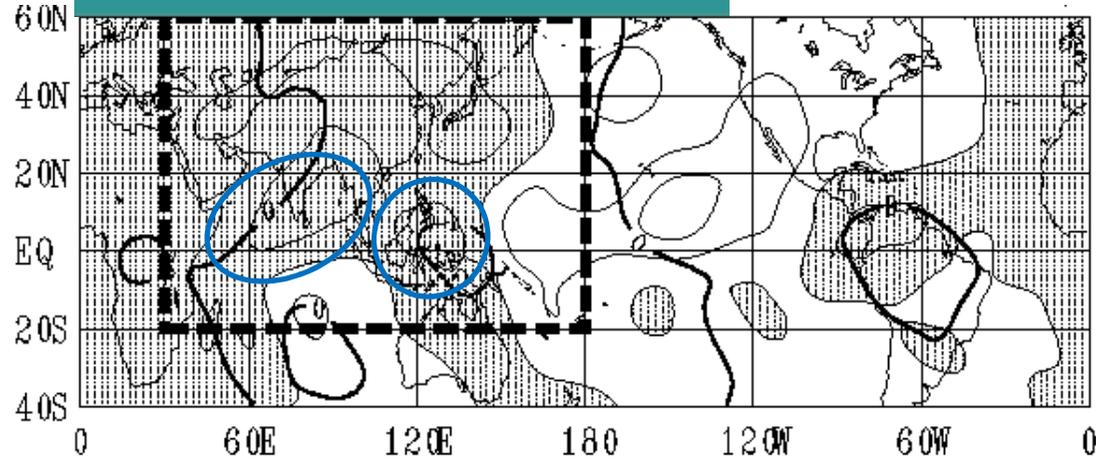
<気温>

- 北日本は暖かい空気に覆われやすいため高温傾向。東日本は平年並。
- 寒気の影響を受けやすいため、西日本と沖縄・奄美は低温。沖縄・奄美ではかなりの低温となる所もある。

<天候>

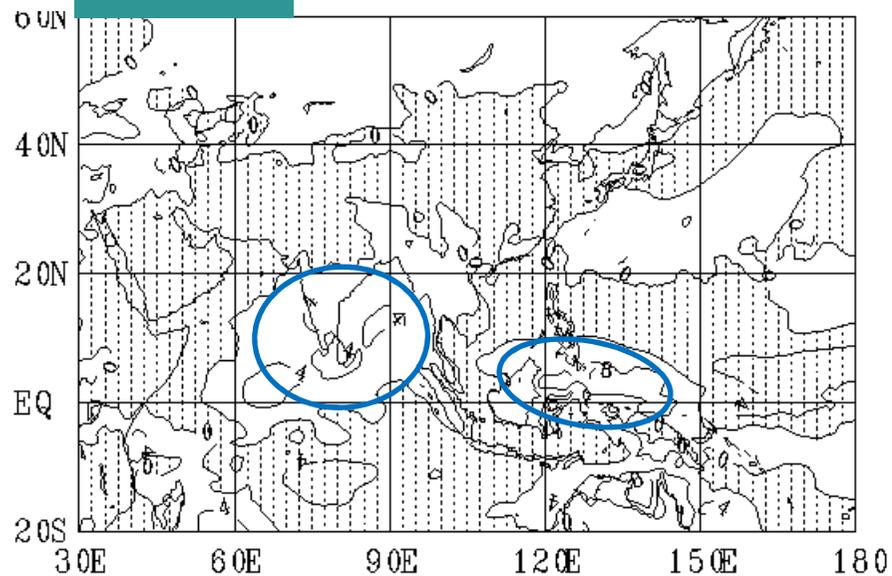
- 東日本日本海側と西日本は、平年程度の天候を見込むが、低気圧や前線の影響が小さいため少雨傾向。
- 北・東日本太平洋側と沖縄・奄美は、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



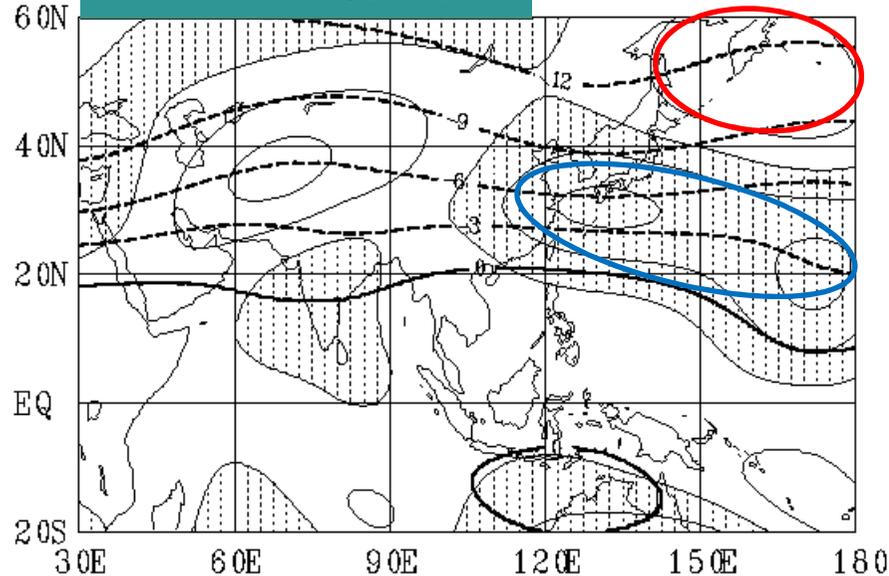
インド洋北部とインドネシア
付近で上層発散偏差。

降水量



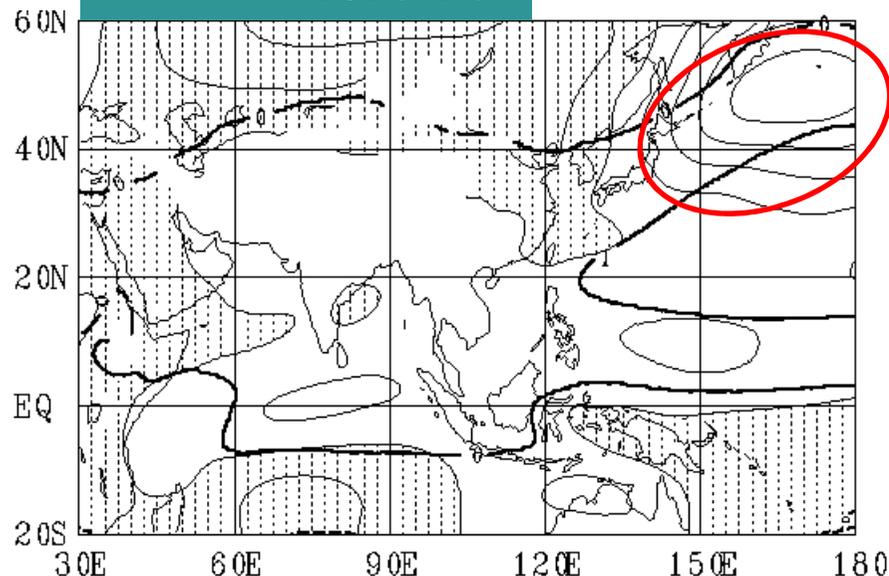
インド洋北部とインドネシア付
近で多雨偏差。

200hPa流線関数



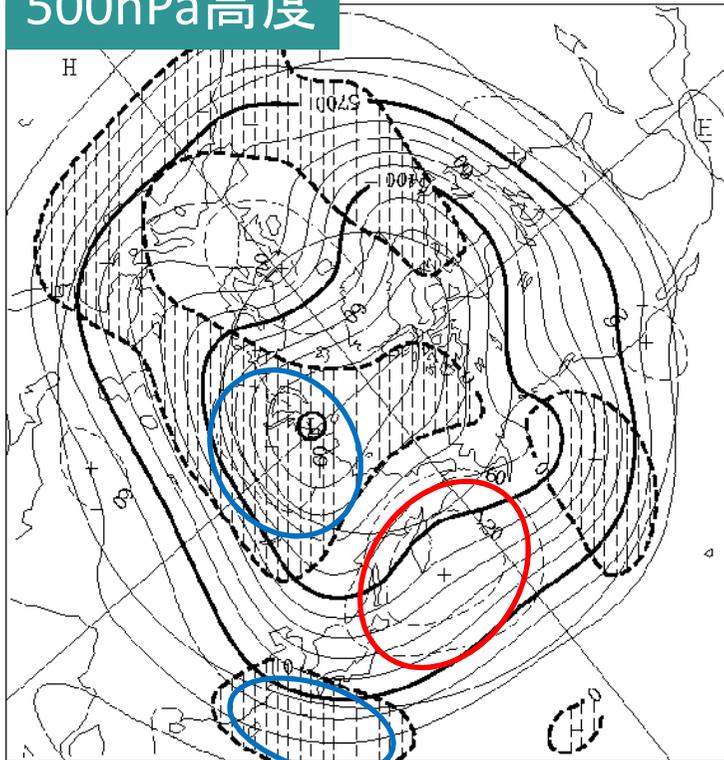
カムチャツカ半島付近で高気圧性循環偏差、東シナ海からミッドウェー諸島付近にかけて低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

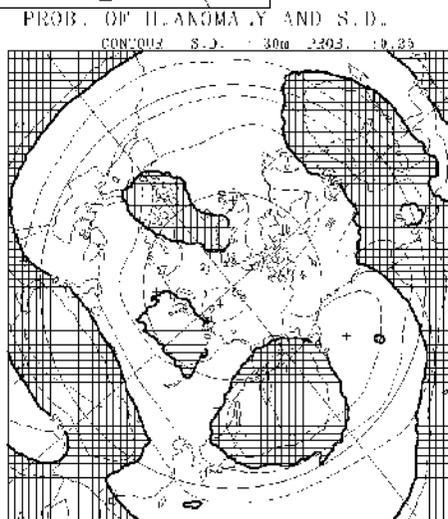
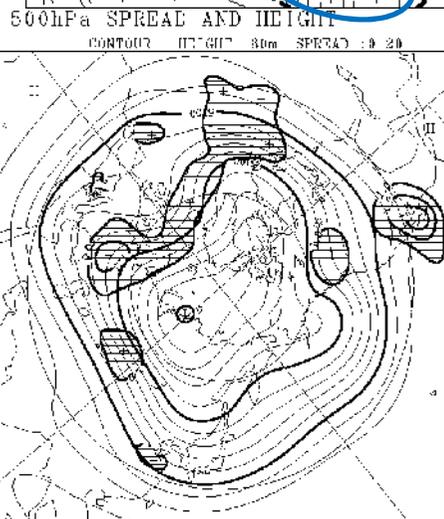


カムチャツカの東は高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。北日本太平洋側は南東風偏差となり、湿った空気が流れ込みやすい。

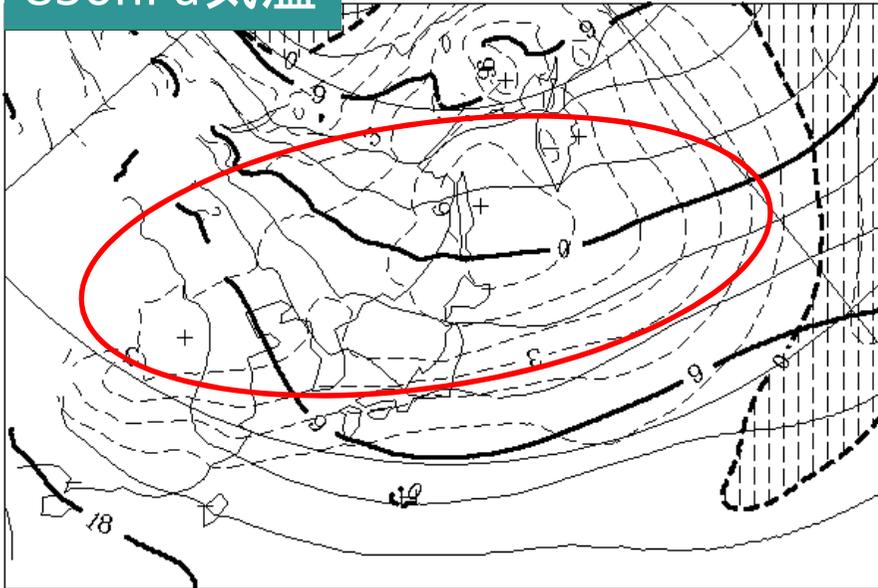
500hPa高度



バイカル湖の西で負偏差、千島の東で正偏差。沖縄・奄美付近で負偏差。

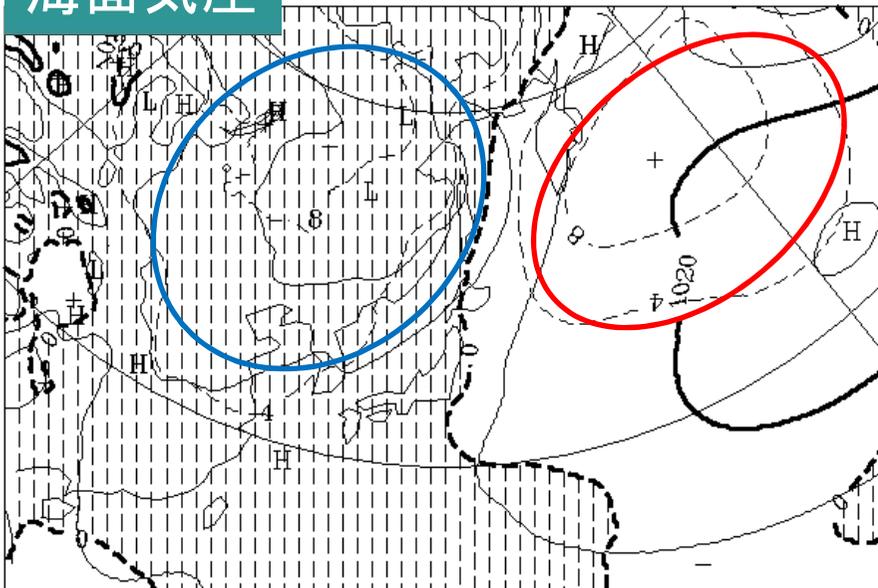


850hPa気温



オホーツク海を中心に日本付近は正偏差。
本州付近では南北の温度傾度が小さく、じょう乱が発達しにくい。

海面気圧



カムチャツカの東が正偏差で日本の東で高気圧が強い一方、中国東北区付近で低気圧が強く、北日本中心に暖かい空気が流れ込みやすい。低気圧に近い北日本は影響を受けやすい。

想定される天候

- 北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- 東日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<気温>

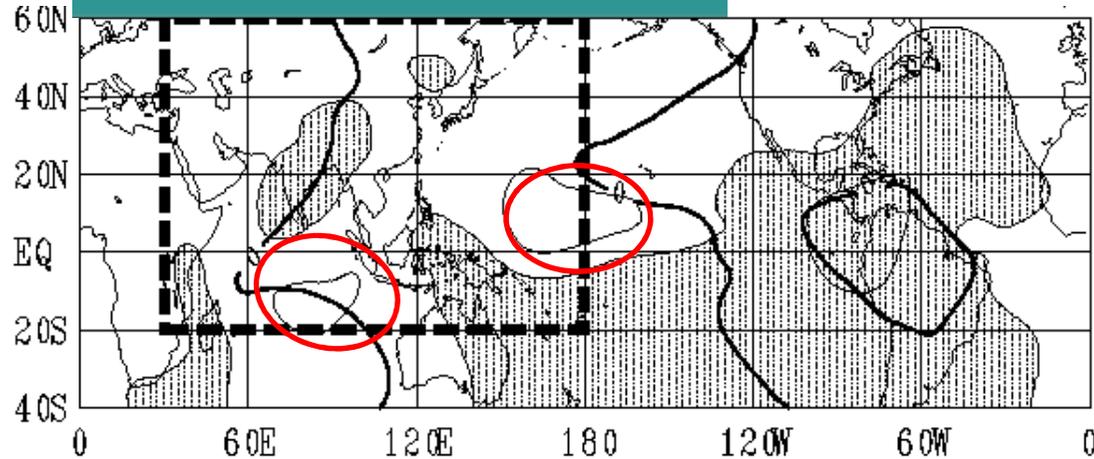
・暖かい空気が流れ込みやすいため、北・東・西日本で高温。北日本ではかなりの高温となる見込み。沖縄・奄美では平年並。

<天候>

・北日本は、低気圧や湿った空気の影響を受けやすいため寡照傾向だが、じょう乱は発達しにくいいため、やや多雨。

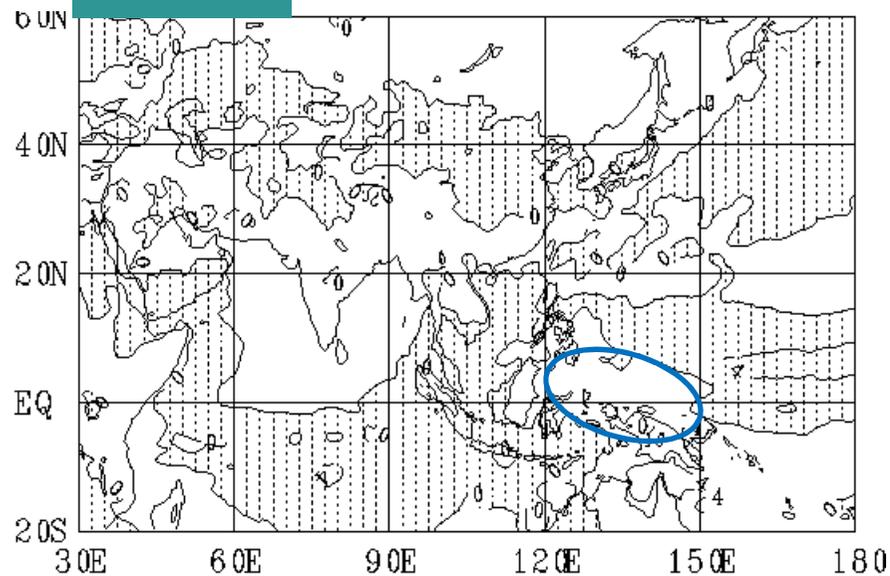
・東・西日本は、平年程度の天候を見込むが、じょう乱は発達しにくいいため、やや少雨。

200hPa速度ポテンシャル



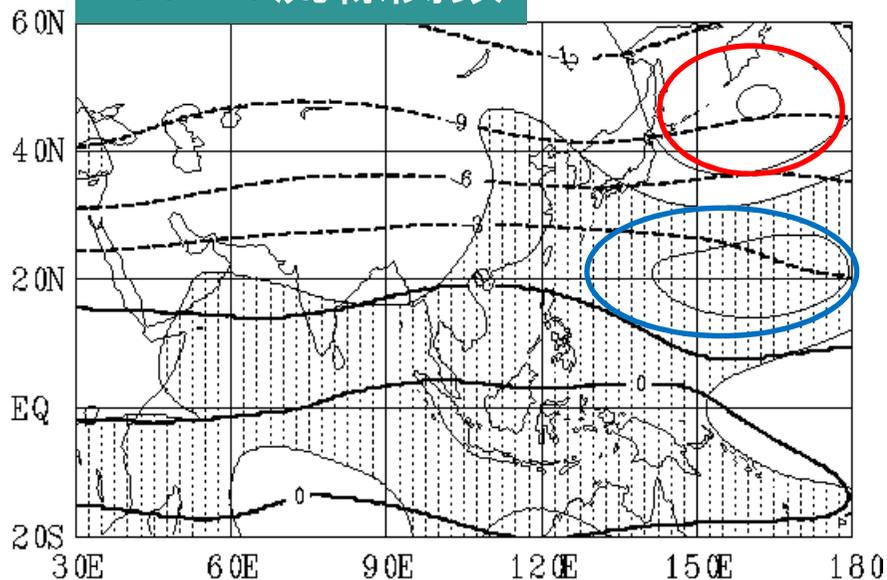
インド洋南部や日付変更線
付近で上層収束偏差だが、
偏差は小さい。

降水量



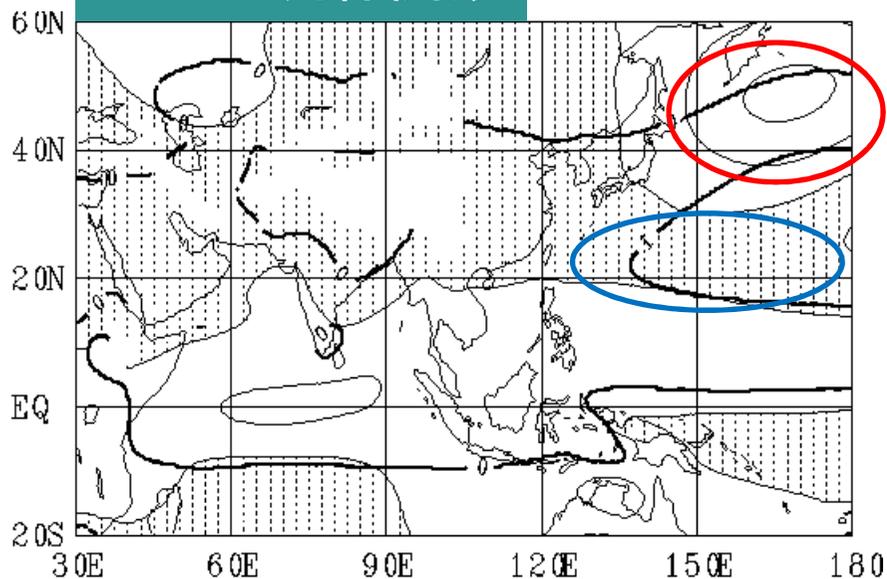
インドネシア付近で多雨偏差。

200hPa流線関数



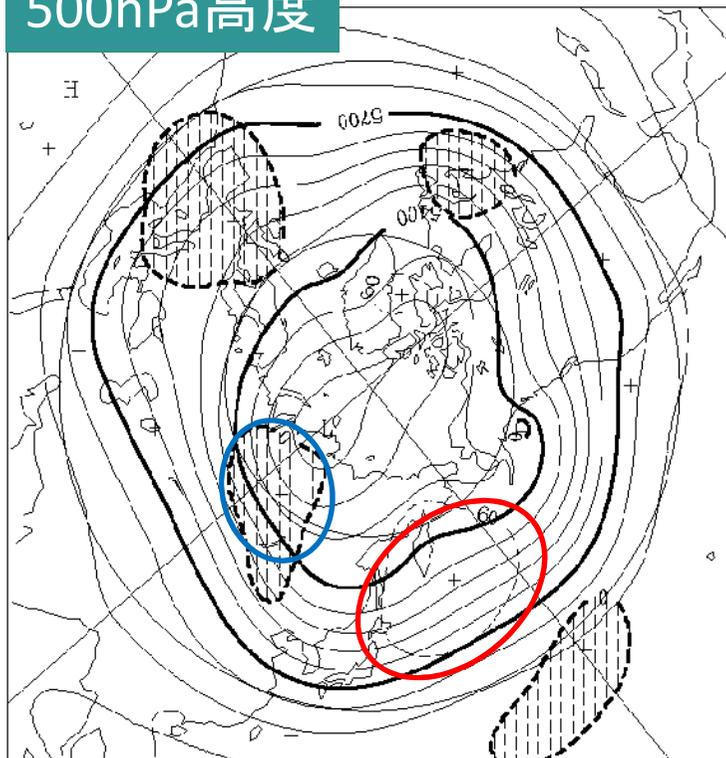
千島の東で高気圧性循環偏差、
日本の南で低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



千島の東で高気圧性循環偏差、
日本の南で低気圧性循環偏差
で、順圧的な鉛直構造。

500hPa高度



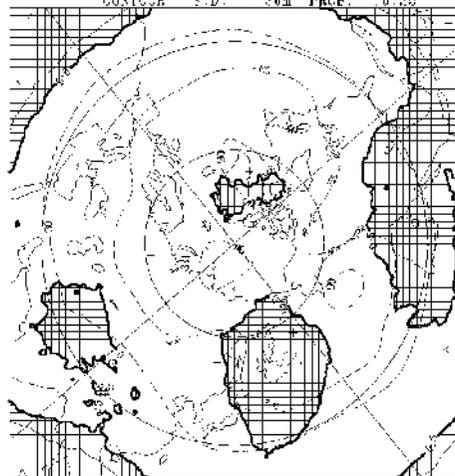
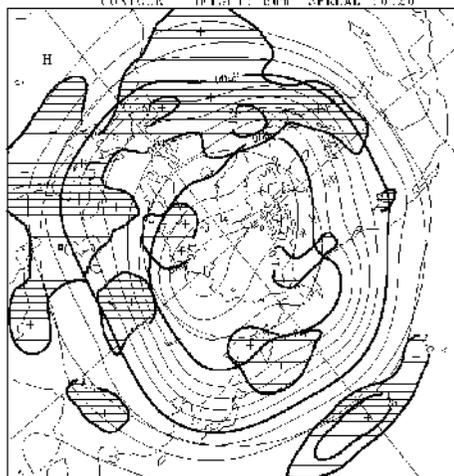
バイカル湖の西で負偏差、千島の東で正偏差が続く。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

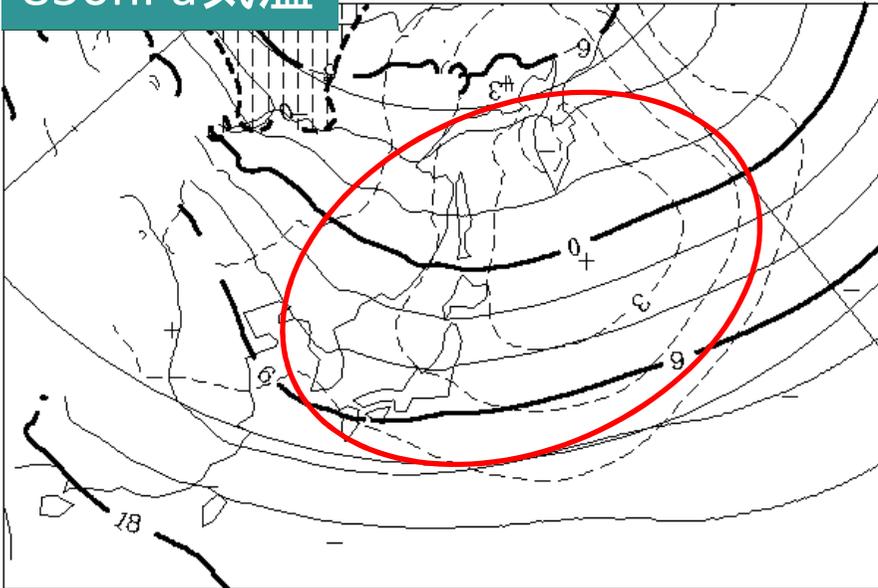
PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

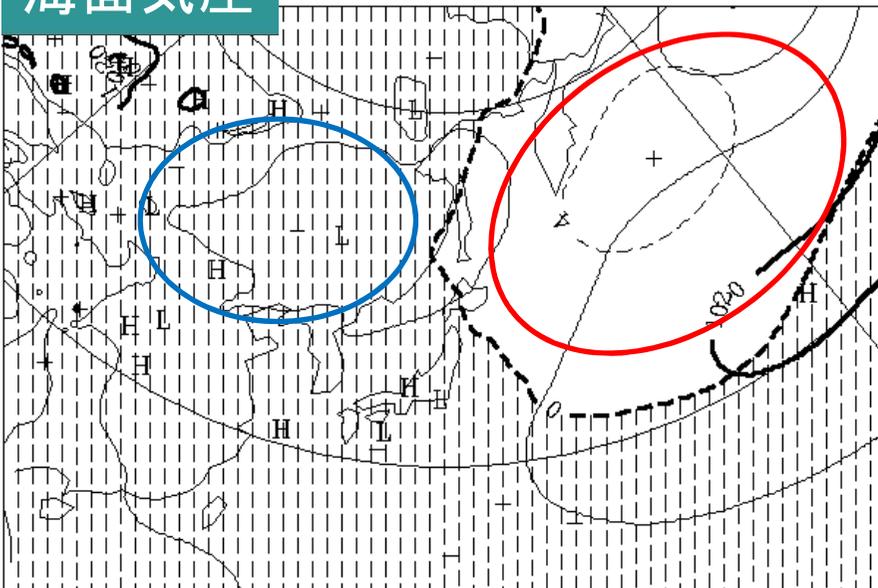


850hPa気温



日本の東を中心に正偏差。

海面気圧



千島の東で正偏差、中国東北
区付近を中心に負偏差だが、
日本付近の偏差は小さい。

想定される天候

- 北・東日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 北・東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

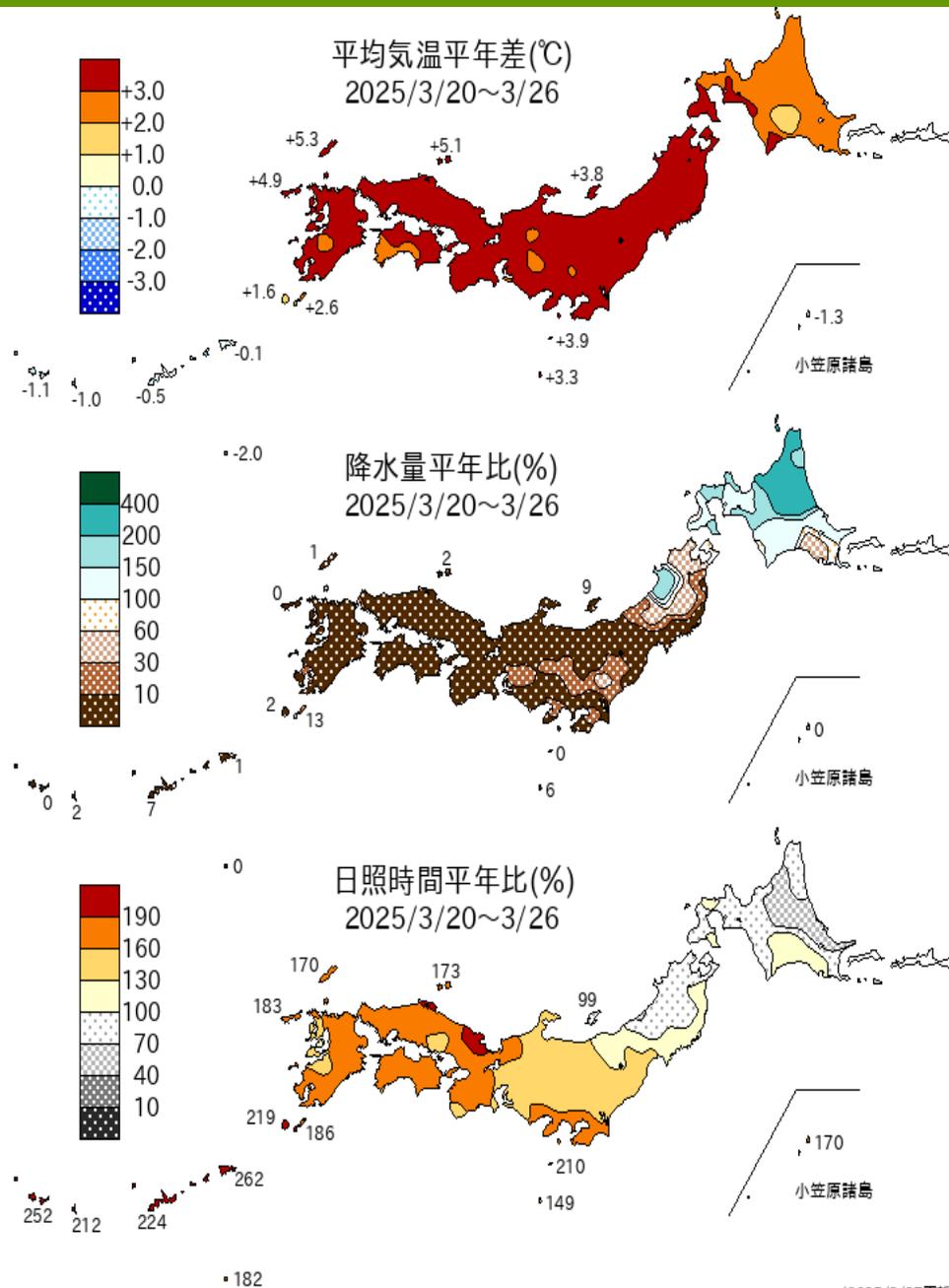
<気温>

- 暖かい空気に覆われやすいため、北・東日本は高温、西日本は高温傾向。
- 沖縄・奄美はほぼ平年並。

<天候>

- 全国で平年程度の天候を見込む。

最近1週間の天候経過



最近1週間(3月20日~3月26日)は、低気圧がサハリン付近や北海道付近をたびたび通過した一方、高気圧が日本の南を東進しました。このため、北日本日本海側では低気圧や前線の影響を受けて降水量は平年を上回り、日照時間は平年を下回りました。一方、北日本太平洋側と東・西日本、沖縄・奄美では低気圧や前線の影響を受けにくく、降水量は平年を下回り、日照時間は平年を上回りました。気温は、低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだため、北・東・西日本では平年を大きく上回り、西日本中心に日最高気温が3月としての1位を更新した地点がありました。一方、沖縄・奄美は冷涼な高気圧の影響を受けたため、気温は平年を下回りました。